



TITLE:

毎月の天象豫報に就て注意

AUTHOR(S):

CITATION:

毎月の天象豫報に就て注意. 天界 1920, 1(1): 13-13

ISSUE DATE:

1920-10-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159509>

RIGHT:

月11月(毎日の運行により、太陽との關係から盈虚が生じる。其の中重なる四つのものだけを毎月豫報する。又、掩蔽(Eccentration)といふ現象が時々起る、之れは月が他の星を掩ひかくすことなので、特に著しいのがあれば豫報する。

遊星 地球から見て興味ある遊星は、水金火木土天海の七つである。此等がそれ々恒星の間に縫ふて運行して行く模様を豫報する。一般にこの遊星でも、西から東へ動くのを順行(Direct Motion)といひ其の反対に、東から西に行くのを逆行(Retrograde Motion)と云ふ。又、一點に停止するのを留(Stationary)と名ける。次に遊星が太陽と全く一對の位置に來た場合を衝(Conjunction)といひ、之れに對した遊星が太陽のある方角と一致した時を合(Conjunction)といふ。合に二種類ある。即ち遊星が太陽の後ろ側に往つた時、即ち遊星と地球との間に太陽が挟まれた時を上合といひ、又、遊星が太陽と地球との間に來た時を下合といふ。衝は火木土天海に限つて起り、下合は水と金星に限つて起る其の他、水と金星には東及び西の最大離隔と云ふことがあつて、これは星が太陽から最も離れて見ゆる時で、従つて此等の星を見るのに最も都合好い時である。火木土天海は衝の時が地球に最も近く、従つて光輝も此の時が最大で觀望に最も都合であるが、水金には此の衝がない。又光輝も離隔とは別であつて、特に最大光輝と呼ばれる時がある。

其の他 彗星、流星、變光星、新星等の特に注意すべきものがあれば載せる。恒星の名稱顯著の恒星には、一々固有名詞を有つてゐるものがあるけれど、一般には其の屬する星座名とギリシヤ文字とを并べて呼ぶものが多い。例へば α Leonis。之れを日本式に譯すれば「獅子座アルファ星」と言はなければならぬ。しかし之れではギリシヤ文字の發音が餘り長たらく不便なので、今後は左の如く、略して簡單に呼ぶことゝ、豫め約束して置く。

ω π χ ϑ υ τ σ ρ π ο ξ ν μ λ κ ι θ η ζ ε δ γ β α
 ヤキ
 文
 字
 シ
 發
 音
 略して